

移動型交流カフェプロジェクト 活動報告



公益財団法人よこはまユースでは、ジョンソン株式会社からの助成を受け2024年1月から5月までの進学・進級・就職などライフステージ移行期にさしかかる青少年の新たな挑戦を応援したり、居心地のよい場所がないと感じる青少年の孤立を防ぐため、4つの若者団体と一緒に横浜市内の学校・公開空地に出向き、新たな交流の場をつくりました。



報告会資料はよこはまユースホームページからダウンロードいただけます

若者たちがつくる、若者のための移動型の居場所。

横浜で青少年や地域のための事業を立ち上げて活動している10代・20代の若者たちとともに若者の居場所づくりに挑戦しました。



横浜駅西口Niigoひろば (VIVRE前)



一般社団法人からこそBOX

横浜関内外エリアを中心に移動式屋台カフェ“からこそcafe”の運営を通じて新しい生活様式に即したまちの交流拠点をつくり地域共生社会の実現を目指す。

第3の家族

NPO法人 第3の家族

家庭環境問題のはざまで悩むこども・若者が、自分の居場所を見つけられるためのプラットフォームを運営。支援らしくない入口をつくるイベントや日常を支えるWebサービスを開発。



二畳建築

街でチャレンジしたい人の手助けをするサービス。やりたいことに合わせてカスタムした二畳の空間を軽トラックの荷台に載せ、あらゆるところに即座にチャレンジを展開することができる。



CanVas

つながりを創り、選択環境を豊かにするためのライフキャリアサポート。中学・高校・大学生を対象に、さまざまな生き方を知るインタビュー企画や体験・実践プログラムを届けている。

「何をやってるんだろう」「おもしろそう」が居場所の入り口になる。

福祉や教育の視点から“支援する”というかたちではなく若者が関心のあるカルチャーの視点からのアプローチ

青少年の声

- おもしろそうだったから立ち止まった
- スタッフとゆっくり話ができてリラックスできた
- 知らない人と話すのが苦手だったけど話しやすかった
- コーヒーを初めて飲むという体験ができた
- 誰でもふらっと立ち寄れる場所がこれからもあると嬉しい



居たい・行きたい・やってみたい！そんな場所を若者の日常の中につくる。

「先生や保護者以外の大人と関わる機会が少ない」「地域の施設や相談窓口に行くにはハードルが高い…」そんな青少年が普段、安心して過ごしている学校に私たちが出向き、居場所づくりを展開しました。



横浜市立横浜総合高校

開放的なリラックスできる環境でゆっくり話せる場



横浜市立戸塚高校校定時制

他学年の仲間と交流したり外部の大人と出会う場



横浜市立寛政中学校

授業や部活とはちょっと違う、小さな体験を積み重ねる場

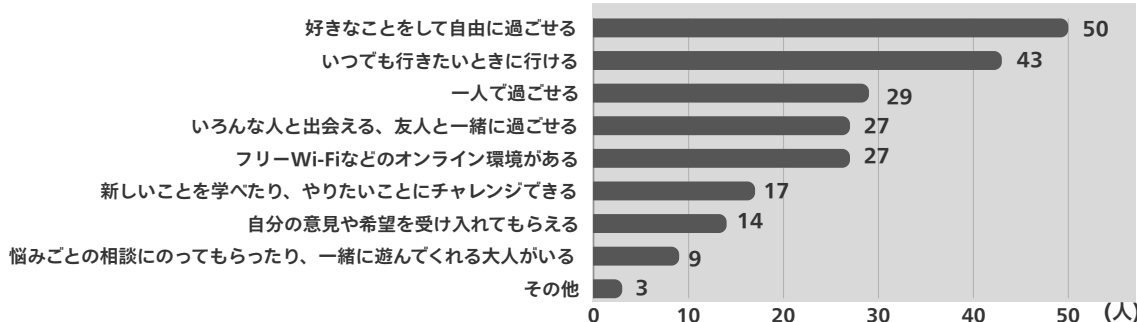


ルネサンス高等学校・ルネ中など部

スクーリングの日が楽しみになる憩いの場

どんな場所があると嬉しい？

横浜駅西口で14歳から25歳の若者63人に聞きました



若者が聞きました！



若者の居場所づくりには、大人の応援が必要。

プロジェクトメンバーの声



若者たちが居場所をつくることは、自分がやっていることが社会にどんな価値があるかを知り昇華できる場にもなる。「あのときコーヒーを淹れてもらったなあ」「ちょっと上のお兄さんあんなこと言ってたなあ」「なぜ大人はあんな場をつくろうと思ったんだろう？」と思いつく経験・きっかけになっていたら嬉しい。

第3の家族

箱物ではない学校や街中に居場所をつくることに可能性を感じた。一団体での活動だと学校や街中で居場所を開くのは難しいので、行政や中間支援組織に学校とつないでもらうことで青少年からの信頼も得られると思う。横浜駅西口のカフェでは音楽をかけているところが若者が寄ってきてそこから話ができたりと、夜回りや声かけをしている支援団体ではリーチできない子たちも集まっていた。



自分の欲しい居場所を建築を通して引き出すことができたと同時に、日常の中に日常から少しはみ出す場をつくることで都市の中の自律的で持続可能な仕組みになる可能性を感じた。インスピレーションを受けれる場所、アクセントのあるものを定期的に摂取できるような場所、そしてそこから挑戦すべきことが見つかった人たちが挑戦できる環境がほしい。



参加してくれた中高生が今まで関わったことのない他学年・他クラスの生徒に話しかけたり交流できたり、年齢の近い大学生スタッフと安心感のある学校の中で出会えたことで、いつもと少し違う新しい繋がりが生まれて世界が広がるきっかけになったと思う。居場所がゴールになるのではなく、社会に繋がる場として学校の中で生徒と出会い背中を押す機会を増やしたい。

ジョンソン株式会社様からのメッセージ



- 施設などで相談窓口を設けるのはイメージが沸くが、今回は実験的な試みとして「若者カルチャーへのアプローチ」と聞いてワクワクすると同時にどうなるのかな？とっていたが、カルチャーに働きかけたことで入口のハードルが低くなり、参加した若者も緊張せず安心して言葉が出せる場になっていたんだと感じた。
- 人との繋がりは居場所が中心になって始まると思うが、それが難しいときもある中でこの移動型カフェは誰にでも居場所を提供できる活動だった。また、学生時代に何か活動してみたいと思っていてもいきなりだとハードルが高くて足がすくんでしまうと思うが、手が届く範囲や空いているスペースでまず始めてみるという経験は良いサイクルを回していくきっかけになると感じた。

日本福祉大学 両角達平さんからのメッセージ



コーヒーを飲みながら生まれてくるコミュニケーションが、問題に気づくきっかけになるかもしれない。今回の移動型カフェはそんなコミュニケーションの回路の多様化を感じた。コミュニケーションの回路が増えることでいろいろな声が響く場所を作ることができるし、「何かやりたい」という声に「やってみよう」と後押しすることで、青少年が「あ、この人信じていいんだ」「ここで声を発していいんだ」と思える。この積み重ねにより社会や大人など他者への信頼度が高まり社会関係資本がつけられ、若者が社会につながっていくと思う。

多様な居場所づくり・ユースワークを横浜からはじめよう。

居場所は青少年本人が決めるもの。でも、たくさんの中から選択できたり、自分でもつくれる環境があったら嬉しい。これからも、いろんな若者たちの声が飛び交う場づくりを広げていきたいです。

応援します

- 学校や地域の置かれている状況や困りごとを把握し、対象となる青少年や場所に応じてハード面・ソフト面を自由にカスタマイズできる居場所づくり
- 「前例がなくうまくいかないかもしれないけどやってみよう」と挑戦する若者を応援できる土壌づくり
- 生き生きと活動したり、本気で挑戦している若者の姿を青少年が間近で見て、「自分もやってみよう」「こんなことができるかも」と思えるきっかけや場